

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1292700133		
法人名	株式会社 ワカバ		
事業所名	湖北台ケアガーデンワカバ		
所在地	千葉県我孫子市湖北台10-9-21		
自己評価作成日	平成24年11月29日	評価結果市町村受理日	平成25年1月28日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kai gokensaku.jp/12/index.php">http://www.kai gokensaku.jp/12/index.php</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所		
所在地	千葉県千葉市稲毛区園生1107-7		
訪問調査日	平成24年12月13日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

湖北台ケアガーデンワカバでは、「思いやり・労り」を念頭に事業所スローガンとして「支え・愛」⇄支え合い、愛溢れるケアを行いお客様の生活をお手伝いさせていただきます。いつでも笑いが絶えない環境づくりが実現できるよう、職員一丸となり日々取り組んでおります。小規模多機能型居宅介護サービスが併設されており、地域の方々も日々通所していただいております。皆様と自由にお話しやお食事等一緒に時間を共有していただける環境でもございます。お客様が地域の方々とお付き合いができ、且つこれからも楽しく安心して寂しさを感じない生活が送っていただけるホームを目指しております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

建物は窓が大きくとってあり、採光がよく、隣の公園が見えて開放感がある。職員と利用者の会話や笑い声が絶えないホームである。1階が小規模多機能型居宅介護事業所で、利用者は1階で過ごしたり、居室で休んだり、自由に暮らしている。市や地域との交流が盛んで、地域の介護予防教室の会場に施設を開放したり、市の見守りネットワークに加入しており、地域の方が利用者の見守りをしてくれる一方、ホームとしても地域住民の見守りに協力している。家族アンケートの満足度も高い。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「支え・愛」をモットーに笑い溢れる環境を築きあげるべく、職員一同「思いやり・労り」を念頭にお客様(ご本人・ご家族・関係者様各位)すべての方々へ誠意を持ってご対応させていただいております。	「思いやりといたわりの心」という法人の理念に沿って事業所としてのモットーをつくり、管理者と職員は、何かあっても、原点に戻ろうと話し合っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議、行事(ホーム主催・自治会主催)等地域の方々との「接点」が持ていけるよう「参加したり」「参加していただいたり」して地域とのつながり、交流をさせていただいております。	盆踊りやもちつき大会など、地域の行事に参加したり、地域の介護予防教室の会場にホームを開放している。また、我孫子市の見守りネットワークに加入して、利用者を見守ってもらおうと同時に、地域住民の見守りをしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を通じて、市内及び地域の高齢者問題、認知症独居者の生活についての問題等、高齢者なんでも相談室様、民生委員様、自治会長様等と情報共有させていただいております。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	委員様のご意見・ご要望且つ、ご助言を頂戴し改善出来ることを率先して活動していくよう努めております。特に行事、イベント等のPR活動の方法など、今後の課題で自治会様との連携を強化していくよう進めております。	市との関係性もよく、また、地域の中に溶け込んでいるホームなので、市の高齢支援課、地域の自治会などからも参加がある。	家族の参加がなかなか得られないことが課題であるが、利用者本人の参加も含め、検討していくとよいと思われる。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	高齢者支援課様・なんでも相談室様(地域包括支援センター)介護相談委員様等のご指導をいただき、管理者のみならず、ケアマネージャー、現場リーダー、現場職員とも連携を図り、情報共有させていただいております。	我孫子市は地域福祉に力を入れており、折に触れ相談できる関係にある。ホームも市の見守りネットワークに加入するなど、互いに協力しあっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	昼間の玄関施錠は行っておりません。夜間に関しては、セキュリティの観点から施錠しております。身体拘束とはどのような事なのかについては、現場職員に対しては現行、管理者、ケアマネージャーがスタッフ会議などでお伝え程度の学習にとどまっております。今後、社内研修での学習機会を予定している段階でございます。課題です。	玄関の施錠を含め、身体拘束はしていない。管理者は朝礼などの機会を捉え、職員に身体拘束についても話している。ただ、研修としては実施していないので、全職員が言葉の拘束など広く学ぶ機会があると、さらによいと思われる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	入浴介助時等で、身体の外傷確認や心身状態の観察を強化し、個別の状況把握に努め日々注意を払っております。現場職員に対しては現行、管理者、ケアマネージャーがスタッフ会議などでお伝え程度の学習にとどまっております。今後、社内研修での学習機会を予定している段階でございます。課題です。		

【評価機関】

特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現行、管理者、ケアマネージャーがスタッフ会議などでお伝え程度の学習にとどまっております。今後、社内研修での学習機会を予定している段階でございます。課題です。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	お客様と契約書及び重要事項説明書を読み合わせた上で、再度詳細をご説明させていただきご理解をいただいております。尚、ご契約後も疑問点等生じた場合には、再度ご説明させていただき納得していただくようにしております。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議にご家族様、介護者様にもご参加していただき、ご意見・ご要望を頂戴しております。但し、現行参加者も少なく課題となっているのが現状でございます。	利用者本人から、居室を離れる時に鍵をかけてほしいという要望があるが、本人の意思を尊重して応じている。また、家族の「大変ですよね」という言葉にも要望等が含まれていることを理解し、汲み取るよう、努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のスタッフ会議を開催し、意見・提案など皆で話し合い議論しております。事業所内では決定できない案件に関しては、本部会議にて稟議にかけて検討していただいております。	月1回、全職員参加のスタッフ会議を実施している。車やコピー機の購入などについての意見も本社にあげて、反映させている。普段から管理者などに意見が言いやすい環境づくりに努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務状況の変動はございますが、基本的に柔軟に業務が行えるよう担当制にせず出来る限り全員がオールマイティーに業務が行えるようにしている事と、逆に小規模多機能型と併設しているので配置的には、出来る限りグループ分けをして配置し、働きやすい環境を心掛けております。(個々の力量・希望等を考慮して配置しております。)		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	定期的に個人面談を行うようにしております。個々の力量・考え方を把握出来るよう現場リーダーを配置し、現場職員が悩みや相談且つ、スキルアップしやすいようにして、管理者も個々の力量等をより把握出来るよう現場リーダーと共有しております。尚、現場職員には、向上心及びモチベーションを高めていけるよう居室担当制にして使命感などを養ってもらえるようにしております。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	事業所分科会に参加し他事業所との情報共有を行い、情報交換させていただいております。		

【評価機関】

特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人様のご要望のみならず、職員からのご提案等させていただき、多少なりとも安心していただけるよう努めております。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご本人様の状況も踏まえ、それと同時にご家族様のご状況及びご要望も把握させていただき、必要なサービスをご提案させていただくようにしております。安心して多種多様なご相談もしていただける関係構築の実現を目指し且つ、密に連絡のやり取りを行い迅速にご対応できるよう努めております。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	アセスメント時にご本人様・ご家族様のご意向を把握させていただき、出来る限りご意向を尊重してケアマネジャー、現場リーダーを中心に職員全体で話し合い、その時に必要だと考えられるサービスを検討してご提案させていただき実行しております。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	掃除・洗濯・食事の準備・後片付け等を一緒に時間の共有を行い、生活協同者であると思っただけのように職員全体で日々努めております。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	行事・イベント・お誕生日などの際、ご家族様に事前にお知らせさせていただき、ご面会しやすい機会を設定していくようにしております。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご入居者様の知人様がお面会に来られた際、ホーム内で気軽にお話し出来たりする雰囲気づくりを意識して心掛けております。	友人が訪ねてきた際、認知症の影響で話がかみ合わない時には、職員が間に入って会話がスムーズにいくよう配慮している。また、馴染みのスーパーに買い物に行くなど、関係継続の支援をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日中は1Fフロアにて小規模多機能サービスの皆様と一緒に過ごしていただいたり、朝・夕の食事はご入居者様同士で召し上がっていただき、TVなどフロアにて皆さままでお話しをしながら絶えず笑い溢れる環境づくりに努めております。		

【評価機関】

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了した場合でも、ご本人様・ご家族様には不定期ではございますが、煩わしくない程度にお電話などさせていただき出来る限りご相談やご支援していくよう努めております。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人様のご意向を出来る限り尊重させていただいております。(帰宅願望、趣味・趣好等)但し、ホームでもご対応しきれない事が発生した場合には、ご家族様のサポートをお願いしております。	一人ひとりの意思を尊重するために、ゆとりをもった会話を心がけている。特に入浴時のコミュニケーションは大切にしている。また、日々の生活の中で一人ひとりの生活パターンを理解することは、本人の思いや意向を把握するうえでとても重要な事と考えている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメント時出来る限りの事を把握出来るよう努めております。また、ご家族様に支援させていただいている際、疑問点等生じてきた場合には、その都度お聞きしたりしてそれを参考にして支援させていただいております。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	「気付き」を大切に記録にも残し、ご本人様お一人お一人のご様子、変化を把握出来るよう日々観察するよう努めております。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアマネジャー(計画作成者)、現場リーダー、居室担当者が中心となり、個人の課題分析を行い、職員全体の意見、ご家族様のご意向を反映して作成しております。また、主治医、看護師のご指示もいただき医療面の対応も計画に反映させていただいております。	ケアマネジャー、現場リーダーが中心となり、個々の課題分析を行い、本人、家族の意向を尊重し介護計画を作成している。また、月1回のモニタリングを行い、利用者の状態を細かく把握し、家族の意向も聞きながら、介護計画に反映している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録(カードックス記録票)には、日々のご様子等毎日記録に残しております。特記事項等は、「GHノート」に記録して情報共有を徹底して、より良い支援が提供できるよう介護計画にも反映するようしております。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人様のみならず、ご家族様も含めてのニーズの変化に対応するべく、「出来ること」「出来ないこと」をより明確に職員全体が認識し、誠意を持ちお客様にご対応させていただいております。		

【評価機関】

特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	自治会主催行事に参加させていただいたりしております。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	医療に関わる重要な情報を把握し、必要に応じて主治医との話し合いの場を設けていただいております。主治医が近隣の為、直ぐに訪問診療していただくことが実現できております。	利用者のほとんどが、協力病院の医師を主治医としているために、医療に関わる情報は迅速に伝わっている。月2回の訪問診療や毎週の訪問看護により、利用者の健康管理が行われている。急な受診には家族や職員が対応している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師が来所した際、ご入居者様の健康状態を説明していただいております。また、電話連絡を頻繁に行い、相談及びご指示を仰いで対応しております。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ご入院先のケースワーカー様と情報交換を行い、ご家族からのご要望・ご意向を反映して対応しております。ご入院先に現場職員も面会させていただき、可能な限りご入院先の看護師様に情報をいただくようにしております。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご契約時、ご本人様・ご家族様のご意向をお伺いし、そのご意向を出来る限り尊重した終末期を迎えられるように主治医様・訪問看護師様・職員と連携して意思統一を図り、かつ、情報共有も行き対応していくよう努めております。	契約時、ホームの重度化における指針を説明している。「緊急時対応確認書」などにおいて、重度化における医療処置の選択肢を示し、利用者や家族の意向を把握している。状態の変化に応じ、早い時期に話し合うことが必要と考えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	現行、全職員が応急手当・事故初期対応の訓練を定期的に行われていないのが現状であります。早急に改善すべき事項だと認識しております。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難方法については、マニュアル以外にも災害時を想定して訓練を実施していきたいと考えております。	年2回、避難訓練の計画はあるが、今年度はまだ実施されていない。災害を想定したシミュレーションやマニュアルは用意している。また、備蓄に関しては、法人として用意しており、発電器も購入している。	災害対策は重点課題となっている。運営推進会議等を通じ自治会への協力の呼びかけや地域住民の参加、協力が得られるよう計画的に進めることが求められる。また、消防署の協力を得て避難訓練、経路確認等、早急の対応が望まれる。

【評価機関】

特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	特に言葉遣いについては、注意を払い対応しております。声のトーン・思いやりある穏やかな言葉掛けなどを意識してご入居者様が不快感を感じないように対応しております。	言葉遣いや声かけ、呼び方等特に注意を払っている。声をかけすぎても不穏状態になることもあるので、一人ひとりの誇りを尊重し、職員全員が情報を共有して対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご入居者様と職員との間で何でも話し出来る関係づくりを大切に、思いや希望をきちんとお聴きするように努めております。お聴きしたお話を参考にして、より良い援助に活かしております。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	毎日、昼間帯での余暇時間をどのように過ごしていただくかを確認しながら個々の過ごし方を決定しております。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着衣など個人の好みに合わせてコーディネートさせていただいております。ヘアカットに関してもご意向に合わせて、訪問理容もしくは馴染みの理美容店にお連れする支援を行っております。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員が付き添い、一緒に行くよう支援させていただいております。	献立作りから買い物、調理、盛り付け、片付け等、利用者と共に、職員と利用者が同じテーブルを囲んで食事を楽しんでいる。多くの利用者が満足している様子が伺える。また、手作りのおやつと一緒に作るリクリエーション、外食など年間を通じて行われている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量・水分摂取量はその都度チェックを行い、一日のトータル摂取量を把握し、多い・少ないを判断して申し送り等にて注意を払っております。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食前には必ず口腔ケア体操を行い、食後は必ず口腔ケアしております。介助が必要な方については職員が行い、義歯の方についてはお預かりして消毒させていただいております。訪問歯科診療の先生様にもご指導いただき対応させていただいております。		

【評価機関】

特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握し、声掛け・WC誘導させていただいております。	一人ひとりにあった排泄パターンを把握し、声かけや誘導がされている。できる限りパットを使用することなく、排泄が自立できるように支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事においては、食物繊維の多く含まれている食品や乳製品を取り入れるよう工夫しております。また、体操などの運動を頻繁に取り入れるようにしております。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴予定の曜日は計画しているが、体調不良等もしくは外出の場合などもありますので、出来る限り曜日を変更して入浴していただいております。午前・午後とも入浴出来るように支援しております。	利用者の希望に沿って入浴支援を行なっているため、入浴時間帯は決めていない。入浴の時間は利用者とお話を楽しむ場として捉え、ゆっくりとした時間の中で利用者の思いを聴くよう努めている。入浴拒否の人には、「一番風呂だよ」などと声掛けし、興味を持ってもらえるように誘導している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間不眠が生じた場合には、お茶や温かい飲み物(ココアやホットミルク等)をお出しし、お話を聴くなど安心してベットに横になっただけのよう環境づくりを行い、対応させていただいております。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬のセット時及び内服時に誤薬や落薬が発生しないようWチェック(封を開ける際の時と開けてお渡しする際)及びお渡しできちんと服用したか否かまでの確認をするよう周知徹底しております。症状の変化に対応するべく、必ず記録に残して変化があった場合には主治医・訪問看護師に報告をして指示を仰ぐようにしております。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	四季折々(お花見等)に合わせた行事を催し、外出したり、はたまたお誕生日会などを開催したりして、まずご入居者様のご要望に添った計画立案をして実行出来るよう努めております。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご希望・ご要望に合わせて、お散歩や買物・通院などに出掛けております。また、自治会の盆踊り大会や餅つき大会にも参加させていただいております。	季節の行事や外食など定例化した外出の他、自治会主催の盆踊りや餅つき大会には参加し、地域と交流する機会になっている。個別の外出支援は十分ではなく、課題と考えている。	人員不足でなかなか難しい面があるが、家族や地域の人々の協力を得て、個別の外出が可能になることを期待したい。

【評価機関】

特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	しまい込んで忘れてしまったりしてしまうご入居者様が多いため、ホームの金庫にてお預りさせていただいております。また、外出時には、職員管理のもと、ご本人様にお渡ししてご対応させていただいております。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご要望の際には、お電話出来るように支援しております。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	レクリエーション時に製作した作品をホーム玄関に飾ったり、掲示したりしております。照明も暖かいい色合いの照明を選んで穏やかな雰囲気を演出しております。特に「香り・臭い」を意識してWC・玄関については、不快感を感じさせないように細心の注意を払っております。	1階にある小規模多機能型居宅介護支援事業所との複合施設のため、1階で過ごすことが多い。共用のベランダからは公園を見渡すことができ採光がとてよい。光などについては、こまめにカーテンで調整していた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	1F・2Fフロア共に食堂・和室など自由にご利用していただけるようにしております。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	昔の慣れ親しんだ愛用品などを継続して使用していただくようにしていただき、安心して過ごしていただける居室環境にするよう配慮しております。	居室は利用者の好みに合わせて自由に使うことができる。愛用品や仏壇などを置いて、自宅にいた時と同じような生活が継続できるように支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	お客様が洗濯物を干したり、たたんだりすることが出来る環境を整えるようにしております。また、残存機能を活かし入浴など出来るよう浴室も整備しております。		

【評価機関】